企業名：東洋電機製造

レポート名：東洋電機製造レポート2021

1.　この会社が目指す姿が理解できるか

東洋電機製造2021レポート1ページ目より、東洋電機製造の長期ビジョンがわかる。「世界の社会インフラシステムの発展」とされている。その中でも、「倫理を重んじ社会・顧客に貢献する、進取想像の気風を養い未来に挑戦する、品質第一に徹し信用を高める」という経営理念が掲げられており、さらに行動指針、企業スローガンと続いている。東洋電機製造が、産業事業・情報機器事業・交通事業・ものづくりの４つの柱を主軸として経営を進めているという方針も、企業の報告書から見て取れる。また、東洋電機製造が地域社会とどのような関わりをしていきたいのか、関係性を築いていきたいのかなど、実例を踏まえながら詳細に掲載されていたので、この会社が目指す姿についてはとても深く理解することができた。

2.　この会社の競争優位性が理解できるか

競争優位性を確認するための指標として、会社や事業の価値、希少性、模倣困難性、組織体系の四つの観点から企業レポートを閲覧した。まず初めに、会社や事業の価値について論じていく。東洋電機製造の事業価値には、社会的に需要・関心が高まっているSDGsとの関連がかなり深い。東洋電機製造では、気球環境保全への取り組みを経営理念の一つとして軸においており、実際に東洋電機製造が提供している製品やサービスにおいては、小水力発電等の脱炭素エネルギー供給、鉄道やE Vなど省エネな移動期間の普及、交通機関バリアフリーによる安全性向上などによりSDGS、いわば地球環境社会への貢献を果たしている。次に、東洋電機製造が行なっている事業の希少性について見ていく。東洋電機製造の事業は主に以下の三部門を軸として成り立っている。それが、交通事業、産業事業、上右方機器事業である。交通事業2位おいては、日本国内のJRや民間鉄道会社、さらには中国をはじめとする海外向けにも事業を展開しており、エレクトロニクス技術と機械技術によって鉄道輸送の信頼を向上させることを目的として展開している。この事業においてもやはり、東洋電機製造の事業の希少性としてはSDGsとの関連が深く、環境に配慮した鉄道車両用の電気品等を開発している。そして産業事業についてだが、産業事業では、環境適合型社会の実現を事業の目的として据えており、自動車の電動化や自動運転に関するテクノロジーの開発を進めている。自動運転が世間でもかなり注目を浴びている現代において、この事業の価値はとても高く評価されるだろう。また、東洋電機製造では、生産拠点である横浜製作所、滋賀竜王製作所を始め、全国全ての事業所環境マネジメントシステムを構築・運用しており、ISO14001の認証を取得している。ISO14001とは、製品の製造他サー

ビスの提供など、自社の活動による環境への負荷を最小限にするように定めた仕様書のことで、これを取得した企業は、地球環境へ配慮した企業活動を行っていることを、国際的に認められたということになる。取得している企業の数は、2019年12月時点で76,466となっており、取得企業数が年々減っているということを鑑みると、東洋電機製造の事業が地球環境に貢献していること、また東洋電機製造の唯一性、比較優位をうかがえる。事業自体の売上高は、海外進出を積極的に行なってきたこともあり新型コロナウィルスの影響を受けて前年比減となっているが、東洋電機製造の競争優位性というものは、日本国内、そして海外にも事業を進出している点や、これまでも上げてきたように地球環境への貢献によって企業価値を生み出している点で見受けられるだろう。

3. その競争優位性に持続性があるかどうか理解できるか

過去の業績や、前年比の売上等を掲載しており、また前年比の売り上げが減少していること、そしてその理由が主に新型コロナウィルスによるものであることは言及されていたが、次年度以降の経営方針や、立て直し策についての言及が少なく、現代の社会状況を踏まえると今後の持続性についてはあまり理解することができなかった。

4. この会社で自身の人的資本の価値向上を達成できると思うか

東洋電機製造では、地域社会と共に成長していくという観点から、さまざまな社会貢献活動を行なっている。インターンシップの受け入れや、大学の寄附講座や体験講座への参加、工場周辺の清掃活動の実施などがその一環である。このように地域社会と積極的な関わりえ思って事業を運営しているという点で、この会社では多くの人生経験を積めることが考えられる。また、社員に対しての福利厚生も充実しており、健康経営を促進している。その中で社員一人ひとりが心身ともに健康で活き活きと活躍できることが必要であると認識し、社員の健康づくりを推進している。ワークライフバランスも重要視していることから、自分に合った働き方で成長していく可能性に期待できる。さらに、教育研修制度や技術伝承の制度も確立されており、技術伝承においては卓越した製造技術や知識を持った社員を「技能マイスター」として認定し、後進の指導育成を担わせる仕組みをとっている。この制度によりこれまでに社員2名黄綬褒章を受賞するなど、実際に高い技術を持った人材を輩出している。よって、この会社では、プライベートとのバランスを考えながらも、技術的、知識的に成長できる機会が豊富にあると私は考える。

5. 報告書にはどのような改善余地があるか

これまでの事柄についての報告は充実していた。その一方で、読み手として知りたい今後の展望についての情報や見通しを掲載している部分が少ないように感じた。この報告書ではこの先

も継続して支援したい、また投資していきたいという意欲を消失させてしまう可能性があるように感じた。よって、東洋電機製造の報告書をの改善余地としては、今後の展望について、特に前年比で売り上げが減少している部分においてはそこへの、今後の展望、解決策についての提案をより詳細に掲載しておく必要があるように感じた。

参照：東洋電機製造レポート2021：　　（最終閲覧日 2022/7/20）